

# 41 上智大学

Sophia University

## 上智大学ソフィアレーシング

Sophia Racing

<http://www.sophiaracing.com/Facebook> <https://www.facebook.com/SophiaRacing>

## 「速いクルマ」を求めて



### 今回の総合結果・部門賞

●総合54位

### Profile チーム紹介・今までの活動

弊チームは第1回日本大会から毎年大会に参加するとともに、世界へ通用することを証明する意思のもと、英国大会、豪州大会など海外大会にも積極的に参戦し、幅広い知識と経験を得ることで更なる向上をめざしており、“Prove to the world~真価の証明”をコンセプトに活動をしています。

### Team-member チームメンバー

#### 相島 雄太 (CP)

鈴木 隆 (FA)

石川 佳紀、藤田 雄二郎、楊 昌龍、王 吉龍、段 超然、木股 尚也、伊藤 悠樹、岡本 航希、公塚 現、渡辺 菜子、大津 悠作、佐々井 宏典、田中 郁郎、齋藤 玲央、福田 元樹、松井 萌、村田 悠司、高村 直樹、久保田 七海、岩村 彩希、飯田 円佳

### Sponsors スポンサーリスト

ヤマハ発動機、日物流産バンテックフォーワーディング、田口製靴、PTCジャパン、カザフ、UDトラックス、平坦製作所、青島歯車、岩倉溶接、ファロジャパン、樹脂ドモデル、アンシスジャパン、GAT、NTN、和光ケミカル、エーシーエム、日本V-grade、コンカレント日本、光佐、田中工業、不二WPC、ベステックス、計算力研究科学センター、水戸工業、アールケージャパン、ミヤコ自動車工業、EMエスシーソフトウェア、日信工業、エフジーシー、AVO/Mo Tec Japan、ダウ化工、サイバネットシステム、Mathworks Japan、ミスミ、茂原ツインサーキット、マグナインターナショナルジャパン、カスタムエア・プランベントアイコウ、ジュニアモーターパーククイック羽生、デル、IDAJ、IHI、Engine Lab、三洋化成工業、近藤科学、RSComponents、Textreme、RAMPF Group Japan、マテリアライズジャパンSMC、レーザマックス、近藤発動機、深井製作所、第一オンキョー、レーシングサービスタナベ、サイアン、童夢、小倉クラッチ、日本自動車大学校、アヴァンス、ニコル・マーケティング、アックスジャパン、武蔵境自動車教習所、スポーツゲイン、シティーカード、ビックビート、エイチ・イー・ティー、丸紅情報システムズ、東京計器研究所、SHコンサルティング、アルテアエンジニアリング、日本精機、東京炭素工業、光洋精機、オクギ製作所、Tire Test Consortium、イグス、オクノグローバルテック、富士精密、タカタ、アルエーシー、村田ホールディング、日の出製作所、日本コーティング

## Presentation

### プレゼンテーション

私たち上智大学Sophia Racingは昨年度以上の車両の進化、熟成、継続を具現化するため今年度は大幅な設計変更に着目しモノコックの改良、エアロの熟成、単気筒ターボの継続などの車両開発に取り組みました。

その上で「G-G線図の面積拡大」をコンセプトに置きチームとして完成度の高い車両をめざしました。昨年度に引き続き、大会参加大学の過去データをもとに、各イベントでのラップタイムおよびコストに対するポイント変動を算出するポイントシミュレーションを行ない目標点数を定めました。

具体的には、パワートレイン分野においては昨年度課題となった出力およびトルク不足の補助、それを補う単気筒エンジン+ターボチャージャーのパワーユニットの開発、シャシーではエアロのレギュレーション変更に合わせて軽量化、低重心化を中心に10インチ化など新たな要素に挑戦しました。エアロデバイスでは前述したレギュレーション変更から前後加重配分を再考し最大限の効果が得られるようしました。

しかし、製作段階において予定していたよりも日程が大幅にずれ込み満足にテスト走行の機会を得ることができないまま大会を迎えることとなってしまいました。車両のトラブルをテスト走行の段階で抽出できなかった結果、ブレーキテストにおいて車両にトラブルが発生し動的審査を行なうことができず大変悔しい結果となってしまいました。

## Participation report

### 参戦レポート

私たちは昨年度の日本大会において不本意な結果に終わり、今年は再起をかけたシーズンとなりました。設計面で多くの変更・改良を加え、速いマシンを作りたいという一心で臨んだ今年の大大会に懸ける思いは大きなものがありました。

しかし、製作段階において作り直したパーツが多く、予定していた日程は大幅に遅れテスト走行を重ねることができませんでした。これはチームのスケジュール管理の甘さが招いた事態であり、その結果、実際の走行での感触や起こる可能性のあるトラブルを確かめられないまま大会当日を迎えることとなってしまいました。

当日、順調に静的審査を進める中、肝心の車両は車検のブレーキテストにおいてトラブルが発生し、その後懸命なリペア作業を行なったものの、時間は無情に過ぎ、車検を通過することなく本年度の大大会は終わってしまいました。動的審査の成績が0点となってしまいメンバー一同やるせない感情でいっぱいであり、また支援して下さった方々にも残念な報告を差し上げることになり大変申し訳なく思っております。ただ、メンバーはその時できる最善の行動として、その後の日程を無駄にすることなく来年度に向けた他チームの視察や見学に費やしました。来年度へと気持ちを入れ替え信頼性のある車両作りに取り組みたいと考えています。

最後になりますが、ご支援、ご声援いただきましたスポンサーの皆様をはじめ、大学関係者、アドバイスをいただいたOB、OGの方々、また大会の関係者の皆様に、この場をお借り致しまして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

**Team-Movie** <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/12th/movie/41.html>